

令和8年

春の法要

本寂上人150回忌法要

4月23日(木)・24日(金)

親鸞聖人御誕生会・花まつり

4月25日(土)



第27世本寂上人

やっぱり阿弥陀さん

聞く 喜ぶ 伝える

此法一切衆生其根機千差別也
 唯信與藥の佛教もほろふれ万別
 方便機教相應努力以て是れ法う
 善法益外つゝやん忘る果に堅道難
 行の法つと末法の時起行修徳し
 望むと濁るは機入聖得果の媒を
 矢つて嗚呼逆惡闡提縁齊く攝し
 散亂放逸を善く教むるをうらハ
 洋土易行の一法よかき礼聖 仰惟よ
 弥陀超世の大願を先身難思ま
 先明を以て生死无碍の表裏善を破
 心善念備の名號を仰ごく衆生



真宗興正派 本山 興正寺

〒600 - 8261 京都市下京区堀川通七条上ル

TEL 075 - 371 - 0075 FAX 075 - 371 - 8509



明治期の興正寺
※表紙の文字は天保九年に発布されたご消息より抜粋（本寂上人直筆）



本寂上人百五十回忌にあたって
宗務総長 秦直樹

遠近各地より本山興正寺春の法要へ、ようこそご参拝くださいました。常日頃より興正寺、真宗興正派にお力添えを頂き厚く御礼申し上げます。今年の春の法要は、お釈迦さまのご誕生会である花まつり、宗祖親鸞聖人のご誕生会に併せ、二十三日、二十四日の両日にわたり、真宗興正派中興の祖である本寂上人百五十回忌法要を厳修いたします。本寂上人は幕末から明治初期にかけての動乱の時代に、興正寺の独立、真宗興正派の一派創建、念仏未開の地であった鹿児島への教線拡大など多くの事績を残され、今日までつづく我が派の礎を築いてくださいました。明治九年の一派創建の際、興正寺に付き従う寺院は、二百二十余ヶ寺であったと伝えられています。以来、百五十年が経ち、教団は大きく発展をいたしました。

また上人は、派外においても勤王家として近代日本の夜明けを支えられました。廃仏毀釈の嵐が吹き荒れる中、先頭に立ち諸宗同徳会盟を設立して仏教各宗を大同団結させ、日本仏教の未来を眺め、法灯を護られた立役者でもありました。

この度の春の法要、本寂上人百五十回忌法要にあたって、上人が歩まれたそのご苦勞を偲びつつ、仏教界の未来を展望しておられたその志願を頂きながら、念仏相続の歩みを皆さまと共に続けてまいりたいと思います。

合掌



興正寺中興の祖
第二十七世本寂上人

本寂上人は、江戸末期の文化五年（一八〇八）に、後の関白鷹司政通公の次男としてご誕生されました。三歳の時に興正寺に入寺され、十一歳の時に第二十七世を継職されます。

上人は、文政地震の山内修復、大塩平八郎の乱により焼失した大阪天満御坊の再建、本山経蔵の建立、宗祖六百回忌法要の厳修など多くの事業をなされ、近代へ向かう興正寺の基礎を築いていかれました。

幼少期より教学研鑽に励まれるとともに、能筆家でもあった上人は、多くのご消息を發布されるとともに、地方へのご巡化も積極的に行われ、門徒教化にもご尽力くださいました。

また上人は、幕末、明治期に勤王家として諸宗同徳会盟を設立して法灯を護られた立役者でもありました。

ところが本寺西本願寺との宗教政策に関する意見の相違から対立が起り、明治九年（一八七六）九月十三日、興正寺は別派独立を成すことになりました。

真宗興正派では、今日まで続く仏法興隆の道を切り開いてくださった第二十七世本寂上人を「中興の祖」と位置づけ讃仰しています。

春の法要つなごう

春の法要はお釈迦さまと親鸞聖人の御誕生を祝う法要です。

お釈迦さまがお生まれになったのは、今からおよそ2500年前の4月8日と伝えられています。お釈迦さまの誕生を祝う法要を「花まつり」といいます。

親鸞聖人は、平安末期から鎌倉初期という激動の時代をお念仏とともに生き、そのみ教えを伝えられた浄土真宗の宗祖です。親鸞聖人の御誕生日は4月1日とされており、2022年にはご誕生850年をお迎えしました。

花まつり

お釈迦さまの御誕生日・甘茶かけでお釈迦さまの誕生を祝いましょう。



花まつりはお釈迦さまの誕生をお祝いする法要です。この法要をご縁にお釈迦さまの教え、仏法を聞くことができるよろこびを確かめさせていただきます。

春の法要期間中、境内に花御堂を設置します。誕生仏（お釈迦さまが誕生された姿の像）を安置しており、甘茶かけができます。甘茶をかける習わしは、お釈迦さまの誕生を祝い甘露の雨が天から注がれ、それをお釈迦さまの産湯にしたという言い伝えにちなみなのです。

親鸞聖人御誕生会



親鸞聖人の誕生を祝う法要

親鸞聖人は平安時代末の1173年4月1日、京都・日野の地にお生まれになりました。

聖人は9歳の時に「真実の救いの道」を求めて出家され20年にわたって比叡山で厳しい修行を積まれますが、真実の道を得ることが出来ませんでした。

その後、法然上人と出遇われ「ただ念仏して弥陀にたすけられよ」という浄土真実の道に入られます。以来、90年のご生涯を閉じられるまで、念仏のみ教えを説き示され、お伝えくださいました。

御堂法話

岡山県 三木秀海



本寂上人150回忌法要

4月23日 10時・14時
4月24日 10時・14時

親鸞聖人御誕生会

4月25日 10時

花まつり

4月25日 14時

